

第24回 山形市子ども・子育て会議 議事録

日 時：令和5年11月27日（月）午前10時から12時
場 所：食糧会館 4階会議室

I 出席者

- 1 委員（14名） 高橋あゆみ橋員 大桃伸一委員 松本重次郎委員 佐藤浩子委員
本島優子委員 大沼美鈴委員 高橋公夫委員 庄司千賀子委員
宮舘照彦委員 工藤直也委員 佐々木僚委員 佐藤一彦委員
山川美江子委員 高瀬謙治委員
- 欠席（6名） 船山真由美委員 佐藤博之委員 野口比呂美委員 中井伸一委員
佐藤千秋委員 森晃委員
- 2 事務局 奥山こども未来部長、荒木こども未来課長、庄子保育育成課長
古内こども家庭支援課長、奥山保育計画推進総括主幹、三沢課長補佐、瀧川主幹、齋藤主任

II 傍聴者

- 1 一般傍聴者 1名
2 報道機関 0名

III 会 議

- 1 開 会 奥山保育計画推進総括主幹
2 こども未来部長挨拶 奥山こども未来部長
3 協 議 大桃会長が議長になる

(1) 第二期山形市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について（報告）……………資料1

資料に基づき荒木こども未来課長が説明

（主な質疑等）

- | | |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委 員 | 資料1基本目標2の3令和5年4月以降100%ということで◎評価ですが、3月時点です。91.8%だとすると、◎ではなくて○の評価でないか。 |
| 事務局 | 3月末日現在では91.8%だったところですが、電話等で確認をし、実際はもう3月中には受けてらっしゃったという状況を、4月以降に確認をしたため、◎とした。 |
| 委 員 | 3月末時点で把握しているのは、91.8%であれば○にすべき |
| 事務局 | ○に改めさせていただく。 |
| 委 員 | 資料1ページ、進捗状況の評価項目が、それぞれ◎、○、△と表記されているが、数値目標に関するその状況でコロナ等数値がはかれなかった部分が、横棒になっているが、評価項目にも横棒を追加したほうがいいのではないか。 |
| 事務局 | 進捗状況の評価項目に、横棒を追加し、横棒もわかるような表示をさせていただきますと思います。 |
| 委 員 | ニーズ調査について、保護者の子育ての満足度が一つ重要な部分になるかと考えているのですが、こどもの側から見たところっていうのも非常 |

事務局	<p>に重要な視点になるかと思うので、次回の調査の時は、取り入れていただきたい。</p>
事務局	<p>第二期山形市子ども・子育て支援事業計画につきましては、来年度までの計画となっております。</p> <p>来年度中に、第三期山形市子ども・子育て支援事業計画策定ということになるかと思いますが、それに向けての調査等の際に、こういった視点も含めて、ニーズ調査の項目に加えることを検討します。また、こども家庭庁からは、子供の意見などをもとに色々な仕組みを考えなさいというふうに通知が来ている状況でもありますので、その点につきましても、どんなことが対応できるのかという部分について、検討させていただきまして、計画の中に盛り込んでいくことになるかと考えているところでございます。</p>
委員	<p>基本目標3-7、8、9は、評価をせず、図っていくとだけ表記になっており、毎年評価するなど、どのような取り組みを行ってきたか表記すべきではないか。</p>
事務局	<p>昨年より親子チャットということで、ラインを活用した大変評価のある事業やっております。</p> <p>あと、今年4月から、児童福祉法が改正されまして、努力義務になっているものにつきまして、山形市では令和5年の4月からですけれども、こども家庭センターということで、母子保健と児童福祉の総合的な窓口を設置しているところであります。施策として取り組んでいるものを皆様にお知らせさせていただきながら第三期計画の策定に向けて市民の方からどのような評価をいただけたかお示しできるようにさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>基本目標3-3、3-5のようにコロナ禍の中でできなかった項目と基本目標3-6のようにコロナ禍でもできた項目で大きく差が出ているのはなぜか</p>
事務局	<p>コロナ禍の中で、基本目標3-3保育所、幼稚園に直接就業体験を行う働く体験でございますが、昨年度、コロナ禍で実際に閉園なった園があり、感染症が完全に収まってもいない状況で子どもと中学生が関わりあうというような機会を創出するのは難しかったのかなというふうに思っているところでございます。同様に、基本目標3-5についても、社会教育、公民館等で行っている親子で実施するような関わりについては、数が少し少なくなっていたということだと思います。</p> <p>基本目標3-6子育て育成事業、こちらにつきましては、小学生以上の方が対象としている部分で、できるところから始めていったという結果としてですね、この部分については、回数は結構できたという状況になってきたのかというところでございます。</p>
会長	<p>基本目標3-3の問題について、現在、保育士不足で、保育士を希望する大学とか専門学校の受験数が減っている。その1つの要因として、この中学生の頃の職業体験がコロナの影響で中止になり職業体験が行えな</p>

事務局	<p>かったとことがあげられる。その中で、園の立場からいったら、当然のことだと思いますが、将来的なことを考えると、コロナが落ち着いた段階で、職場体験をしながら保育の魅力とかっていうのを、中学生に感じてもらって、保育者を志望する。そういう人たちを増やしていただければなと思っております。</p>
委員	<p>担当課が学校教育課というところになりますので、事務局からそういった意見がございましたこと、お伝えさせていただければと思います。</p> <p>基本目標2-2について前年比 42.11%となっているが、小学校代表として現状を報告させていただきます。説明及び評価の理由だけでなく、対人関係の不安、無気力など、本当に原因要因は多様化で、複雑化しております。</p> <p>また、世の中には特別な支援を必要とするような、障害を持っているお子さん、そこまで診断名がついていなくとも、限りなく何かと特性が強いこだわりがあるお子さんであるとかそういうお子さんもかなりの数含まれているということをご承知いただきたいなと思いました。</p> <p>学校では、先生から子供や家庭と繋がるなど、学校でやれることはやっておりますがプラスアルファ学校だけでなく、行政の方での例えば、保護者の方への相談窓口とか、第三の居場所が今後もっと増えてこない、なかなか学校だけでは難しい。</p> <p>学校では、不登校の子に対して、継続率と発現率二つの考え方で動いている。不登校を継続しているお子さんを継続させない、新たに不登校児を発現させない、発現率を抑えていくっていうこの二つの面から、不登校の対策を各学校ではしておりますので、ご承知おきいただければなと思ったところです。</p>
会長	<p>基本目標2-2の数値目標のところにあります、令和5年度から修正とありますが、これは具体的にどういうことでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらの数値目標につきましては、これまでは不登校児を現状維持していくという考え方でしたが、令和5年3月末ではこれだけ増えてしまったということがあるので、そこから、教育委員会としては5%減らしていきたいと、そういう目標を立てられたということをお聞きしているところでございます。</p>
委員	<p>コロナ禍のため、学校との信頼関係と、保護者同士の繋がりが、ますます希薄になっており、問題視しているところ。今年度からPTA総会等、各年の総会、集会、学級なんていうのが始まりましたけども、4年ぶり、保護者自体が、連続性がなくわからない状況です。コロナ禍も終了し、学校それぞれの地域性も違いますが、PTAの方でも、先生や保護者の繋がりを作るため、動いていかなきゃいけないと思っているところです。</p> <p>また、保護者の立場として、困ったことがあったときに、相談先がわからないという状況もあります。各学校にスクールカウンセラーがおりますが、そこに相談しようとしても、予約で1ヶ月先とか、すごく先にな</p>

事務局

ってしまう。そうすると週に1回しか行けなかった子が、2週に1回とか、状況が悪化してしまうケースもある。その時その時の相談をする先ってというのがなかなかスクールカウンセラーさんだけではならず、市とか県でも相談先があるが、ちょっとした気軽に相談できる相談先があるといいと思う。

山形市では、親子よりそいチャットやまがた、という事業を令和4年5月から始めさせていただいております。

対面や電話ではなかなかハードルが高いという方もいらっしゃいますので、身近なSNSツールでありますLINEを活用した相談ができるということで、整備しております。対応者も社会福祉士等の資格を持っている方で、なかなか対面で相談することが難しい方でも、気軽な話から相談の核心のところに入っていけるということで、こういったツールを使っていただくことで、より幅広い方、今までなかなか山形市とか、いろんな相談支援事業所にも繋がるのが難しかった方でも繋がることができます。実際に、引きこもっていた子供から直接相談があったり、子供の要求にこたえられるような、新しい支援団体さんを紹介したりしている例がある。このツールをもっと広げて、活用できるようにしていきたい。

また、相談を重ねて、信頼していただけると非常に重たい相談をいただいたりしますので、裏の方でケースワークをしております。山形市の家庭センターでは専門機関の社会福祉士とか、精神保健師も職員としておりますので連携したり、いろんな支援団体さんも入って、支援につなげておりますので、ぜひこちらの方を周知できるように、学校の方にもチラシを配布させていただきながら周知をしていきたいと思っております。

委員

行政が周知をしても周知や支援が届かない人たちがやっぱり一定数いると思うが検討しているのか。

事務局

山形市の家庭センターの方では切れ目のない支援ということで、妊娠時、または妊娠届をいただいた時に「母子モ」というアプリを登録していただいているところです。

このアプリは、妊娠時に不安があるような場合、対面で面談が行う、そのほかZOOMを使って、直接来ていただかなくても、面談ができるようになっております。

ご相談したい内容については、妊娠届の予約を取るときに、事前にアンケートを回答いただいて、そこで不安なところがありましたら、妊娠届の提出時に、なるべく不安を解消できるように取り組んでいる。出生してからは、ご家庭に訪問し、民生委員さんですとか地区の協力員をご紹介するなどをしている。また、昨年度から子育て支援センターも紹介したり等重層的に、様々な形で支援を届けようとして取り組んでいるところでございます。

委員

事情があるお子さんの記録、情報が小学校に入っていないように感じて

委員
委員
事務局

いる。保護者の方の同意を取った上で、進めなければならないと思うが、幼児期の情報が小学校にきちんと繋がってほしい。

また、山形市は規模がある程度大きいので、課を跨ぐと、情報の共有が難しくなるところがあって、巡回相談で、相談を受けたケースが、発達相談の方では全く情報が届いていないっていうようなことがたびたび起こります。

1人のお子さんを見ているのに、なかなかその課を跨ぐことによって情報が分断されてしまうところは問題だと思っており、情報の共有を図っていただければと思います。

小学校に上がる時の情報は要録として小学校の方に提供している。

幼保小連絡協議会等で情報をあげたいが、時間調整が難しい。時間調整に追われないような職員配置ができるようにしてほしい。

数値目標となっているにもかかわらず、増やすとか減らすなど曖昧な表現で目標が立てられているので、数値に表すべきではないか。

第三期計画策定の時に検討させていただく。

(2) 保育所等の利用定員等について……資料2

資料に基づき荒木こども未来課長が説明

(主な質疑等)

委員	令和6年4月1日開園ということになるのか。
事務局	そうなります。
会長	新制度幼稚園について、もう少しちょっと具体的に説明願いたい。
事務局	県を通じて、私学助成を受けていたが、来年度から、いわゆる特定教育 保育施設ということで確認を受けまして、山形市からの給付を受ける。

(3) 教育・保育の量の見込みに対する確保方策の見直しについて……資料3

資料に基づき荒木こども未来課長が説明

(主な質疑等)

委員	新制度幼稚園移行というところで定員が60名減となっているが、それぞれ60名減になるのか
事務局	2園合わせて60名減になります。
委員	この変更によって来年度待機児童は発生しないのか
事務局	0になるように調整をしているところである。

(4) 小規模保育事業における3歳以上児の受入に係る山形市の基準について……資料4

資料に基づき荒木こども未来課長が説明

(主な質疑等)

委員	この集団生活が難しいなどの特別の事情があるお子さんでも連携施設との連携は必ず必要なのか。
事務局	資料4の(1)の集団生活が難しい事情がある場合でも、全く集団生活の経験がないのも問題があると考えております。3歳になった当初、なかなか難しいということであっても徐々に集団生活に慣れていただく必要もあると考えておりますので、状況に応じて集団生活の方にも、馴染んでいただくということを想定しております。

4 その他

第25回の子ども・子育て会議については、令和6年2月頃を予定している旨を事務局より説明。(質疑なし)

5 閉会

奥山保育計画推進総括主幹